

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和05年 6月 29日

郡山市長 殿



提出者

住 所 福島県郡山市待池台1-1

株式会社 小松製作所
氏 名 代表取締役社長 小川 啓之
代理人 郡山工場長 作田 俊哉
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 024-959-3955

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 小松製作所 生産本部 郡山工場
事業場の所在地	福島県郡山市待池台1-1
計画期間	令和05年4月1日から 令和06年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	2523 油圧・空圧機器製造業
② 事業の規模	製品出荷額 (令和4年度) 37,232 (百万円)
③ 従業員数	452名 (令和5年4月)
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	メッキ工程 (クロムメッキ) 廃酸 → 処理業者に委託し、中和・脱水後再資源化 廃アルカリ → 処理業者に委託し、中和・脱水後再資源化 汚泥 → 処理業者に委託し、中和・脱水後再資源化

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

生産本部 — 郡山工場 — 総務部
— 生産部

処理計画統括責任者 : 郡山工場長
処理計画作成担当者 : 総務部安全環境課長
特別管理産業廃棄物管理責任者 : 総務部担当者
廃棄物担当者 : 総務部担当者、生産部担当者及び生産技術課担当者

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
	排出量	144.74 t	6.18 t	5.3 t
	(これまでに実施した取組) ・廃酸の液組成管理基準幅適正化による液更新頻度削減 ・廃アルカリ液の使用時間延長による更新頻度削減 ・メッキ槽清掃時の作業見直しによる汚泥他の発生量削減			
②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
	排出量	130.27 t	5.56 t	4.77 t
	(今後実施する予定の取組) ・廃酸の液組成管理基準幅適正化による液更新頻度削減 ・廃アルカリ液の使用時間延長による更新頻度削減 ・メッキ槽清掃時の作業見直しによる汚泥他の発生量削減			

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃酸及び廃アルカリ液は専用ダイライトタンクへの保管を継続する 汚泥は専用のドラム缶に回収・保管し、他との分別を図る
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃酸及び廃アルカリ液は専用ダイライトタンクへの保管を継続する 汚泥は専用のドラム缶に回収・保管し、他との分別を図る

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施は無し。			
②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定は無し。			

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 実施予定は無し。				

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
	自ら埋立処分を行なった特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施は無し。			
②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定は無し。			

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
	全処理委託量	144.74 t	6.18 t	5.3 t
	優良認定処理業者への処理委託量	144.74 t	6.18 t	5.3 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 委託基準に従って各々の業者に委託を実施している。				

		【目標】			
		特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥
②計画	全処理委託量	130.27 t	5.56 t	4.77 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	130.27 t	5.56 t	4.77 t	
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	
	(今後実施する予定の取組) 今後も優良認定処理業者へ委託することを継続する。				
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（令和4年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	156.22 t			
(今後実施する予定の取組等) 加入済み。					
※事務処理欄					

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。